2016.10.12『埼玉新聞』全国高校ラグビー埼玉大会

（第３種郵便物認可）　埼玉新聞スポーツ　２０１６年（平成２８年）１０月１２日（水曜日）　（１０）

昌平4年連続8強

熊工 深谷 正智 なども名乗り

第96回 全国高校ラグビー 埼玉大会

＝埼玉新聞社など後援（第3日、10日・熊谷ラグビー場）

3回戦8試合を行い、昌平が第8シード川越工を53－7で下し、4年連続の8強に入った。他のBシード（第5～8）勢では浦和が早大本庄に17－5で逆転勝利。伊奈学園は川越東に38－21で競り勝った。熊谷工は川口北を38－7で退けた。

初戦を迎えたAシード（第1～4）勢は順当に勝利を収めた。前回優勝の第1シード深谷は城西大川越に66－7で快勝し、第2シード慶応志木は春日部を54－7で撃破。立教新座は松山を67－5で下し、正智深谷は草加に66－5で勝った。

第4日は11月5日、熊谷ラグビー場で準々決勝を実施し、深谷－昌平、熊谷工－正智深谷、立教新座－浦和、伊奈学園－慶応志木で争われる。

▽3回戦

深谷 66（33－0、33－7）7 城西大川越
昌平 53（22－7、31－0）7 川越工
熊谷工 38（24－0、14－7）7 川口北
正智深谷 66（45－0、21－5）5 草加
立教新座 67（36－0、31－5）5 松山
浦和 17（17－0、0－5）5 早大本庄
伊奈学園 38（28－7、10－14）21 川越東
慶応志木 54（21－0、33－7）7 春日部

主力不在も10T好発進

3連覇を目指す深谷は主将のSH新井ら主力6人がけがで不在ながら城西大川越から10トライを奪って好発進した。それでも速い展開の中でパスミスも見られるなど雑な部分もあった。ゲーム主将のフッカー矢吹は「やりたいことをやる前に、やるべきことができていなかった」と反省する。

一方、負傷から復帰し、元日の花園3回戦以来の公式戦だったWTB森祐は2トライ。次戦は全員が復帰予定で森祐は「できなかった部分を修正していけばもっといいチームになる」と意識した。

後半に修正 本領を発揮

第4シードの正智深谷は後半に本領を発揮して10トライ中7トライを挙げ、草加を寄せ付けなかった。21－0で折り返したハーフタイム、松本監督は「キックを減らしてもっと体を当てていくように」指示。1分にWTB権田が飛び込むと、相手に1本を返されたものの、12分から6連続トライで一気に突き放した。

2トライのCTB女部田は「久しぶりの試合で後半から慣れてきた」。副主将のFB小林は「外のランナーが強気にゲインできた」と前半からの修正に満足そうだった。

9T圧倒 雪辱果たす

昌平は4月の関東高校大会県予選2回戦で敗れ、シードを逃すきっかけになった川越工に借りを返した。Bシード相手に9トライを集めて圧勝。御代田監督は「僕も選手も相当緊張していた。春に一度負けているのでどうなるかと思っていた」と勝利に安堵（あんど）した。

立ち上がりから気迫を見せた。前半開始約20秒、「先制して流れに乗ろうと思っていた」とフランカー木村がいきなりトライ。相手のキックをチャージして持ち込んだ。その後も休まず前に出てWTB宇佐美、CTBブラウンらが得点を重ねた。

初戦の2回戦も独協埼玉に14－12と大苦戦したが、戦い方を修正し、攻めどころを意思統一して本来持っている実力を見せた。2トライのナンバー8小関主将は「（川越工に）雪辱を果たせたかな」と結果に納得した。（勝俣直）

▶昌平－川越工　前半22分、昌平のナンバー8小関がタックルを受けながらトライを決める
▼熊谷工－川口北　後半24分、熊谷工のFB牧野が突破を図る

リズムの改善期す

38－7の快勝にも第5シード熊谷工の面々は反省の言葉ばかりが口を突いた。川口北に対し、前半は2トライで内容はいま一つ。気持ちを入れ替えた後半は開始30秒ほどでFB牧野がトライし、ここから乗っていくかと思われたが、次がなかなか続かなかった。球出しのリズムが悪く、橋本監督は「よそ行きのことをやっていた」と手厳しい。

主将のSO小林は「粘りや頑張りは相手の方が上だった」。牧野も「相手もいいチームで思い通りできなかった」と敵の力を認め、改善を期した。